



# 徳川美術館 名品コレクション展示室

令和6年 6月11日(火)～9月8日(日)

展示期間 A:6/11(火)～7/9(火) B:7/10(水)～8/6(火) C:8/7(水)～9/8(日)

凡例:◎は国宝を示します。

## 【第5展示室】

### 大名の雅び — 奥道具 —

大名自身やその夫人・子ども達の私的な生活の場「奥」で、身の回りを飾ったり、使用した道具、また教養を高めたり、趣味や遊びに用いた道具を奥道具という。大名の華やかな生活をしのばせる豪華な蒔絵の調度品は、婚礼の際の入奥道具に多い。その種類は、香道具・化粧道具・文房具・飲食器、旅道中具・遊戯具・楽器など多岐にわたる。

王朝文化の伝統をひく貝合せや聞香は、単なる遊びではなく、武家の婦人に欠かせない教養だった。楽器の演奏も、たしなみの一つである。古くから宝物視されていた古筆や古画はもとより、江戸時代の狩野派・土佐派の作品や、浮世絵なども愛好されていた。

No.	指定名	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	四季山水図屏風 六曲一双	伝賢江祥啓筆	室町	15-16	A
2	浜松図屏風 六曲一双	伝円山応挙筆 岡谷家寄贈	江戸	天明8年<1788>	B
3	扇面流図屏風 六曲一双	岡谷家寄贈	江戸	19	C
4	近江八景図巻・瀟湘八景図巻	近江八景図巻:近衛内前讚・土佐光成筆 瀟湘八景図巻:花山院常雅讚・狩野探雪筆 本寿院下総(尾張家3代綱誠側室・同家4代吉通生母)所用	江戸	17	A
5	名所絵画帖	狩野典信・惟信筆 個人蔵	江戸	天明元-寛政2年 <1781-90>	B
6	源氏物語図屏風 六曲一隻	森野家寄贈	江戸	17-18	C
7	絵入版本 源氏物語 慶安3年(1650)跋 六十冊の内	山本春正編	江戸	承応3年<1654>	C
8	◎ 初音蒔絵薫物壺・台	霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年<1639>	A
9	◎ 初音蒔絵櫛箱	霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年<1639>	BC
10	山水に鷺蒔絵色紙箱		江戸	17	BC
11	松竹梅文蒔絵短冊箱		江戸	18	BC
12	鉄線唐草蒔絵行器	本寿院下総(尾張家3代綱誠側室・同家4代吉通生母)所用	江戸	17	BC

## 【王位戦開催記念 特別公開】

13	葵・浮線菊紋散唐草蒔絵将棋盤		江戸	19	A
14	葵・浮線菊紋散唐草蒔絵碁盤		江戸	19	A
15	葵・浮線菊紋散唐草蒔絵双六盤		江戸	19	A
16	菊折枝蒔絵将棋盤	諸戸家寄贈	江戸	19	BC

### 【第5展示室の見どころ — 国宝 初音の調度 —】

初音の調度は、寛永16年(1639)9月21日、3代将軍家光の長女・千代姫が、尾張家2代光友に婚嫁する際に持参した調度で、日本一豪華な嫁入り道具といわれる徳川美術館の代表的所蔵品の一つである。鏡台や貝桶、三棚などの蒔絵調度を中心に、染織・金工品など総計70件が国宝に指定されている。「初音の調度」の名は、『源氏物語』「初音」の帖の「年月を松にひかれてふる人に今日鶯の初音きかせよ」の歌意を全体の意匠とし、その歌の文字を葦手書きに散らしていることに由来している。